

交通安全だより第8号

「運転中 私はスマホをさわらない」 (2020年度 金賞交通安全標語)

I. 大雨や強風、濃霧などの事故防止

近年、大雨で冠水した場所で身動きが取れなくなった車が水没したり、強風により車が横転するなどの異常気象に係る事故が目立つようになってきました。そこで今回は、大雨や強風、濃霧などの気象状況（悪天候）に応じた事故防止のための留意点についてまとめてみました。ご一読ください。

1. 大雨時の留意点

気象状況に注意し、大雨が予想されるとき（大雨注意報や警報が出されたときなど）は、車の運転を控えるのが望ましいですが、やむを得ない事情で運転する場合や、走行中にいきなり大雨に襲われた場合には、次の点に注意しましょう。

- ①ワイパーを最速にして視界を確保しましょう。最速にしても雨滴が拭い切れない場合は、そのまま走行を継続するのは危険ですから、安全な場所に車を止めて様子を見ましょう。
- ②高架下などのアンダーパスやすり鉢状の道路は冠水するおそれがありますから、できるだけ避けましょう。
- ③前方に冠水場所がある場合、まだ大丈夫だろうと侵入すると立往生する危険がありますから、決して無理はせず引き返しましょう。
- ④河川の近くを走行すると、河川の氾濫に巻き込まれる危険がありますから、このような場所を走行しているときは、速やかに高台など安全な場所に避難しましょう。



2. 雷発生時の留意点

雷が発生したときに運転を継続すると、落雷の音や稲光に驚いて運転操作を誤ったり、落雷が気になって周囲への注意が欠けるおそれがありますから、安全な場所に停車して、雷が通り過ぎるのを待つようにしましょう。その場合、車外に出るのは危険ですから、車内にとどまっておくようにします。



3. 強風時の留意点

強風時は、ハンドルをとられ車が流されたり、ワンボックスカーなどの車体の高い場合は横転することがありますから、暴風警報や強風注意報が出されたときは、できるだけ運転を控えるようにしましょう。やむを得ない事情で運転する場合には、特に次の点に留意しましょう。

①街路樹の揺れ方などから風の強さに注意しながら、スピードを落として走行しましょう。

②万一、強風に車が流されたときに、ハンドルを切り返したり急ブレーキを踏むと、かえって危険な事態を招くおそれがあります。車が流されても決してあわてずにしっかりハンドルを握って車の態勢を立て直しましょう。

③紙屑などの飛来物が一瞬ドライバーの視界を遮ることがありますが、そのようなときもあわてずに、前方の状況をしっかりとみて走行しましょう。

④橋の上やトンネルの出入口、海岸沿いなどは強風や突風に襲われやすいので、このような場所を走行するときは、特に注意して慎重に走行しましょう。なお、台風接近時の海岸沿いの道路は、強風だけでなく高波のおそれもありますから、できるだけ避けましょう。



4. 濃霧時の留意点

濃霧が発生している場所は、視界が悪化しますから、特に次の点に留意しましょう。

①スピードを落とすとともに、ヘッドライトまたはフォグランプを早めに点灯しましょう。

②センターラインやガードレール、前車の尾灯を目安に走行し、必要な場合は、クラクションを使用して対向車などに自車の接近を知らせるようにしましょう。

③極端に視界が悪化して、前方がほとんど見えない状態になった場合は、安全な場所に退避して霧が晴れるのを待ちましょう。

引用：三井住友海上火災保険6月の安全運転のポイント（2020年6月号）

http://daikai.net/drive/pdf/r02-6annzen_point.pdf

II. 今月の交通ヒヤリハット

・事業場より提出されたヒヤリハットです。危険予知活動に利用してください。

いつ	帰宅時
どこで	右折レーンの無い十字路で
何をしている時に	右折待ちの前車よけて直進しようとした際
どうなった	対向車線の右折車が死角から自車の前を横切りヒヤリとした

III. 今月のスローガン（企業開発センター交通問題研究室）

「気をつけよう 無理な追越し 漫然運転」